

医療技術学科新聞

2018年
5月号

新任の先生方

今年度から医療技術学科のそれぞれの専攻に1名ずつ教員が赴任されました。そこで今月号では臨床検査学専攻に赴任された中原正子先生と救急救命学専攻に赴任された岸誠司先生にインタビューを行いました。

Q. 大学の第1印象はどうでしたか？

A. 広島国際大学に来て、建物が可愛い、学生が礼儀正しい、実験室が綺麗といった印象を受けました。

Q. 大学に赴任された理由は？

A. 実家が山口県で大学から近いこともあり、大学のホームページがとて見やすく学生に寄り添っていると感じ、学生思いの良い学校だと思い、広島国際大学で仕事をしたいと思いました。

Q. どのような研究をしたいと思っていますか？

A. 卒業研究での指導予定は、授業では行わない特殊

染色を行ったり、同専攻の中山先生と合同で行うものも考えています。

Q. 新1年生に向けてコメントをお願いします！

A. 学生生活では国家試験に通ることが最優先ですが、これからの時代はコミュニケーション能力が大切です。そのため、教員などの大人とたくさん話をし、コミュニケーションを培ってほしいと思います。

車の運転が苦手、車に乗り始めて2〜3日で脱輪してしまつたというおちゃめな可愛い中原先生ですが、講義がとて分かりやすく楽しいです。これからよろしく願います。(坂下茉奈美)

Q. 自己紹介をお願いします。

A. 27年間岡山県倉敷市消防署で救急救命士として働いていました。現職の救急隊員の教育システムを立ち上げたり、岡山県内で指導救命士として役割をもらつ

たり、県内で講習会を開いたりして働いていました。当時、救急救命士として働いていましたが、10年前から教育の重要性を感じており、教員という新たな職場で働くことを考えていました。そんな時に専攻主任の安田先生に声をかけて頂いたことがきっかけで、広島国際大学へ着任する運びになりました。

Q. 広島国際大学や学生の印象はいかがですか？

A. いくつかの大学を見てきましたが、大学全体の活気が一番あり、学生が元気だと思いました。そして国家試験の合格率や就職率が高いのは教員が熱心だからだと思いました。この2ヶ月を通して本当に良い大学だと思いました。

Q. 学生へメッセージをお願いします！

A. 努力することはスポーツだけでなく勉強にも実技にも色々なことにつながり、そうするためには普段から生活リズムをルーティン化することで自分のパフォーマンスを最高に出

せると思います。結果を出すためには、最初は低いハードルからでも構いません。徐々に知識や経験を得ることでハードルは高くなります。「努力は裏切らない」、「ルーティン化する」、「ハードルは徐々に高くしていく」という3つを意識して学生生活を過ごして欲しいと思います。(掛橋夢佳、平尾怜)

臨床実習スタート

5月7日(月)から臨床工学専攻、臨床検査学専攻の臨床実習が始まりました。どちらの専攻も期間は6週間です。今回は実習前と実習中の臨床工学専攻の4年生の先輩にインタビューしました。

Q. 臨床実習に行くにあたって準備したことは何ですか？

A. 略語をまとめたり実習に使えるような資料をまとめたりしました。

Q. 実習で一番学びたい事はありますか？

A. これやりたいという分野がまだ定まっていなくて様々な分野を実習で体験させていただき、見つけたと思います。

Q. 今後実習に行く下級生にアドバイスをお願いします！

A. まず、実習先の技士さんと積極的に会話をすることが大切だと思います。その中から国家試験で大切なこと、臨床工学技士になった後に大切なことなどを、沢山吸収できるように頑張ってください。

私は2年生なので臨床実習までまだ時間があります。先輩達のたちの言葉を聞いて下さい！

胸に日々学んでいきたいと思えます。(橋本悠平)

今後の大学・学科の予定

6/17(日) 第1回オープンキャンパス(全キャンパス)、第1種ME技術実力検定試験

6/18(月) 4年次第2組臨床実習開始

作成者(医療技術学科クラス委員)

竹中佑介 (4年臨工)

森山翔太 (4年臨工)

斧幸一郎 (4年臨検)

中澤歩美 (4年臨検)

西沙智圭 (4年臨検)

佐藤華絵 (4年救急)

田中芹奈 (4年救急)

小嶋元気 (3年臨工)

木嶋仁美 (3年臨検)

坂下茉奈美 (3年臨検)

平尾 怜 (3年救急)

掛橋夢佳 (3年救急)

浦山稜汰 (2年臨工)

橋本悠平 (2年臨工)

竹内正志 (2年臨検)

平田雄大 (2年臨検)

皆さんはクラス委員を存じてでしょうか？現在新入生からのクラス委員を募集しております。興味のある方は気軽に615研究室を訪ねて下さい！